

9条まもれ

「二度と戦争しない」と誓った憲法9条
次の世代にも無傷でひきつぎましょう

選挙後、安倍首相は「改憲論議は自民党の改憲案がベースになる」と言い出しました。改憲の狙いが「二度と戦争しない」と誓った憲法9条を葬り去ることであることがクッキリ

です。自民党の改憲草案は、9条2項を削除して「国防軍」を書き込むことを明記しています。「海外での無条件の武力行使」に道を開くものです。

「戦争する国づくり」許さない

参院選で改憲勢力は、自民党、公明党、おおさか維新などを加えて参院の3分の2（126議席）を超えました。改憲勢力が衆参で改憲発議に必要な3分の2以上を占めたことは重大です。

しかし安倍首相や自公は選挙戦で「憲法隠し」に終始しました。国民は改憲への「白紙委任」を与えた訳ではありません。日本共産党は「9条守れ」、「戦争する国づくりを許さない」と一層がんばります。

憲法9条
「変えない方がよい」

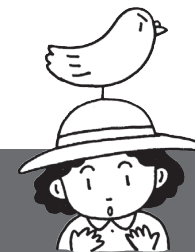
68%

「朝日」5月3日付世論調査

安保法廃止で、日米同盟にヒビ？ 「血の同盟」のために憲法こわしていいか

「安保法を廃止すると日米同盟がこわれる」と安倍首相。「軍事同盟は、血の同盟」と著書に書いています。「いまの憲法解釈では、アメリカの戦争で日本の若者の血を流す

ことはない。それでイコールパートナーといえるのか」と。そんな「血の同盟」のために憲法をこわすなど許されません。



自衛隊について日本共産党はこう考えています

「憲法を守る」「国民の命を守る」
両方を追求

私たちは、自衛隊は憲法違反の存在だと考えています。同時に、すぐになくすことは考えていません。国民の圧倒的多数が「自衛隊がなくても大丈夫」という合意ができるまで、なくすことはできません。

それまでは自衛隊が存続することになりますが、その期間に、万一、急迫不正の主権侵害や大規模災害があった場合には、国民の命を守るために自衛隊に働いてもらう—この方針を党の大会で決めています。

災害救援でがんばった
自衛隊を
海外の戦地に
送らない

いま問われているのは、自衛隊が違憲か合憲かではありません。戦後60年余の「9条のもとでは集団的自衛権は行使できない」という憲法解釈を変えて、自衛隊を海外の戦争に派兵することを許しているのか、どうかです。

「専守防衛」の志をもって入隊した

自衛隊員、熊本の震災救援・復旧のために汗を流した自衛隊員を、海外の「殺し、殺される」戦場に送っているのかが問われているのです。

「こんなこと許せない」—この1点で、野党4党は結束し、安保法制の廃止、集団的自衛権行使容認の閣議決定の撤回を求めています。